

「第4回宗家・会長会議」メモ

日時 : 1月16日(木)14時より

場所 : 日本財団ビル 2F 会議室

テーマ : 業界活性化

～吟詠剣詩舞を知らない方々へ向けての取り組み～

参加者 : 宗家・会長 23名(7地区より)

日本財団の笹川陽平会長にもお越しいただき、参加者との記念撮影、ご挨拶をいただき、ご著書「愛する祖国へⅡ」も贈呈いただきました。

第4回宗家・会長会議 コメント

沼崎富 会長より ご挨拶

●吟剣詩舞界を活性化させるため

・昨年3回開催された「外部識者検討会」において提言されたアイデア

- ・学童保育やこども食堂へ出向いての指導
- ・幼少年の吟剣詩舞の動画投稿
- ・成人式でコンクールを実施
- ・知名度の高い神社・仏閣でのコンサート
- ・文化庁推進事業である文化芸術鑑賞、体験推進事業「学校巡回公演」への参加 など

今後の吟剣詩舞道界がどうあるべきか、また、当会への要望や質問などを含め、忌憚のないご意見をいただき、この会議が有意義なものとなるよう願う。

笹川 陽平 会長より ご挨拶

●人口減少とはいうけれど

- ・全国からお集まりただいたみなさま方の熱意は十分に理解している。
- ・人口の減少にともない、会員さん、お弟子さんも減っているとのこと。
- ・はたして人口が増えれば、お弟子さんは増えるのか？

●「礼と節」 伝統を存続させるために

- ・「礼節」というのは、日本の『道』とつくものに存在する。
(吟剣詩舞道、柔道、剣道、華道、茶道 など)
- ・「礼に始まり、礼に終わる」という、世界にない伝統文化の一翼を、
みなさまが背負っている。
- ・「伝統」というものは、古いままでは駄目。
- ・本質を変えないままで、やり方・見せ方・方法など、現代に沿ったもの
に工夫することが大切。
- ・変化をしない組織、団体は衰退していく。

※200～300 年続いている造り酒屋、京都の和菓子屋さんの例。
本質を変えず、やり方・包装の仕方・営業方法など、いろいろなところに知恵を働かせ、本質は失わぬまま、見た目は現代風にして生き続けている。

●情熱と激励

沼崎会長を中心に、新しい吟剣詩舞道が、本質を失わず、さらなる発展のためにはどうしたらいいかに取り組んでいただきたい。

みなさまの燃えるような情熱をここで一致団結し、
11月の武道館を目指してください！

池内 賢二 専務理事より ご挨拶

●吟剣詩舞界の厳しい状況

- ・吟剣詩舞界は今、瀕戸際の状況。(歌舞伎やお能のように)一部の人だけがやるものになってしまったのか、厳しい時期に差し掛かっている。
- ・昔は生活の中に詩吟があった(結婚式など)が、現在はそれが無い。

●普及振興のために

- ・YouTube など SNS での発信も大事だが、魅力を伝えるためには実際に吟剣詩舞を見て、触れてもらうことが最短距離。
- ・「吟剣詩舞道和歌集」は足掛け3年で、ようやく3月末に発行予定。この和歌集にもご協力いただいた専門家の先生が、昨年、倉敷での全国大会で、初めて吟剣詩舞の舞台を鑑賞し非常に感動されていた。
- ・新規の愛好者をどう集めるか。
- ・私は今年還暦。30~40代と違って、時間に余裕が出てくる時期。まだ働いている 50~60 代もターゲット層になるだろう。

～ 意見交換会 ～

鈴木 吟亮 先生

吟亮流吟風会総本部 宗家
東日本地区連絡協議会 幹事長、振興会 理事

※資料「日本財団への当振興会の現状と対策についてのレポートサマリー」をもとに説明

●吟剣詩舞人口の減少

- ・振興会では、昨今の愛好者に関する統括的なデータはなく、今から約25年前(財団設立30周年)の全体調査が最後であるが、その時と比べると、吟剣詩舞人口は約1/3 以下になっている。
- ・東京都総連では、2018年～2023年の5年間で、40%の愛好者が一気に減った。(過去30年のうち、この5年間の減り幅が一番大きい)

●平均年齢の上昇

- ・約25年前の平均年齢40歳(現在は70歳前後に)。

●環境の変化を理解しながら、新しい環境に適応していくために

- ・コロナ禍の影響、高齢化、指導者の引退、少子化による参加人口減少や機会損失への対策を検討。
- ・SNSを活用した広報活動、アプローチ。
- ・流派と地区連協と振興会が一緒になって復活していく。

●自身の活動として

(二条城で)小さな規模だが、スポンサーを見つけ、京都府連のご協力もいただきながら、世界遺産である「二条城」で演舞を披露するイベント、映像制作をおこなった。

(福島で)復興地で元気の出る催しを!ということで、ご宗家に許可をいただき、また、若い方々の協力もいただきながら開催した。住んでい

る方が少ないため、来ていただける人数は多くはないが、いろいろな新聞やSNSに取り上げられ、メディアでの広報価値はあったため、悲観することばかりではない。

菅原 右光 先生（中国地区・山口県）

菅原流剣詩舞道 宗家代行

●地区連協行事 「内」から「外」へ

- ・今まで地区連協の行事は、ほとんど会員に向けてのものだった（コンクール、吟詠特別研修会、剣詩舞研修会など）。
- ・執行部としては、「外に向かっての活動」を提案していきたい。
- ・新しい提言をすると、拒否反応を示す方もいるが、それでも新しい提言はしていかなければならない。
- ・例えば、吟詠と剣詩舞と一緒にした「吟剣詩舞道大会」的なものをおこない、地区の文化団体の協力も得て、地域の方にも参加してもらう。
- ・会員は「入場券」を購入するが、できるだけ地域の方に見ていただきたいため、一般の方には「招待券」を差し上げて無料にする、など。
- ・上手い、下手、関係なく、一生懸命やっている姿をまずは見てもらう。
- ・すぐに結果にはつながらないかもしれないが、中国地区5県（山口/広島/岡山/鳥取/島根）で協力し合うことが、自分たちのためになるし、活性化にもつながるのではないか。

●チャレンジする人をサポート

- ・新しい取り組みや企画に対し、振興会から補助金を出るような制度を検討して欲しい(たとえ金額は低かったとしても、やる気につながる)。

池内専務理事より

- ・面白いアイデア。例えば「青少年」というキーワードを付ければ、青少年育成基金からの補助の可能性もあると考える。

田中 竜真 先生(東日本地区・茨城県)

詩歌吟詠竜真流 宗家

●事例紹介 ~2本の電話~

<1本目>80代女性からのお電話(隣接する町在住)。

- ・ケアマネジャーさんから、「声を出すために詩吟をやりなさい」と言わされた。

- ・ご本人自らがホームページを検索し、電話をかけてくれた。

<2本目>70代女性(東京から隣接する町に移住)。

- ・ご夫婦で詩吟をしていた。
- ・時間があるのでまたやりたい、ということでホームページを検索し、連絡をくれた。

●わかったこと／ヒント／ポイント

- ・高齢者もけっこうSNSを利用している。あなどってはいけない。

- ・ただし、身近な場所にいる先生が発信していることがポイント！
- ・ケアマネージャーさんの世界全体に、「声を出すには詩吟がいい」という概念をなんとか植え付けたい！いい方法はないだろうか。

●イベントでの工夫

- ・毎年、300席ほどのホールで吟剣詩舞の大会を開催している。
- ・8割が一般客で埋まる。
- ・「200円のチケット」で入ってもらう。
- ・200円のチケットを主催者がホールから買い取り、「200円のチケットを差し上げますので来てください」と言って配る（結果的にお客様は無料）。
- ・出演者が知り合いに10～20枚を配る。
- ・イベントの入場料無料はダメ。軽くみられるので、少額でも金額を設定するべき。タダは下に見られるし、馬鹿にされる。
- ・毎年見に来てくれる方が半分以上いる。
- ・主催者の熱意が大事。
- ・お客様は来てくれるが、吟剣詩舞人口が増えないのが悩み。

須藤 紘誓 先生（東日本地区・神奈川県）

吟道絢仙流 宗家

●コロナの影響から脱出するために

- ・5年前、地元の小中学校を中心に、地元の公民館を使ってのイベントを計画していたが、コロナで無くなってしまい、今も未達の状態。
- ・コロナの前は、子供会の行事に参加させていただき、吟詠を披露していましたが、コロナ後は活動がままならない。
- ・幼少年には、まず家族の理解、特にお母さんに興味をもっていただくことが大事。
- ・成人式での吟詠披露は、会員の中からも意見が出ていた。

●一般の方をつれてこよう！

- ・春と秋に温習会、また、定例で吟詠審査会を開催しているが、その際、一般の方に来ていただくよう、声を掛けるルールにしている。
- ・コロナ以降、夜は危ないということで、主にお昼の教場を設けているが、今後は、働いている方向けに夜の教場も増やしていきたい。

●振興会への提案

- ・一般向けに和歌と漢詩のコラボ(CD、伴奏など)の企画があれば。例えば、名槍日本号と今様など。
- ・スーパーチームなど、若い方をNHKに出演していただいたらどうか。

会長より

- ・和歌と漢詩のコラボについて、例えば発表会などで、2分では短い場合、そこに和歌を入れて4~5分、さらにナレーションを追加して、と

いう工夫ができる。

- ・和漢朗詠集(藤原公任 編纂)など、漢詩から和歌をつくったものがあるので、そこから選んでいただくのもいいかもしれない。

中山 岳襄 先生(近畿地区・大阪府)

日本吟道岳龍会 総本部会長

●初！和歌のコンクールを開催

- ・大阪府総連盟では、今年から和歌のコンクールを開催する。
- ・5月に開催予定で、現在募集中。

●個人でのチャレンジ

- ・連盟の役員を長くやっているが、連盟というものは、組織としてまとまって活動することが求められ、また、中の行事に翻弄されてしまい、思うような活動ができないことがネックだった。
- ・7年前(平成30年)、そのような状況を打開すべく、まずは個人で「ミニコンサート」をやってみることにした。
- ・ひいきの近所の喫茶店で、お店の暇な曜日、時間帯に詩吟披露(ミニコンサート)をさせていただけないかとお願いした。
- ・第2木曜日の午後3時から、最大30分できることに。
- ・都合でできない時もあったが、平成30年(2018 年)2月から約2年

間、全部で 18 回、無償で個人のミニコンサートを行った。

- ・CD 機材を持込み、準備から司会、何から何まですべて一人で。
- ・喫茶店なので、その時間帯が必ず暇だとは限らず、毎回人数が違う。
- ・当然だが、詩吟を聞くのが目的ではない人、読書したい、談笑したい、という人がほとんどの中でのトライ。
- ・自分の修行として、およそ 3 題、漢詩や和歌、新体詩などを吟じた。
- ・一番うれしかったのは、若いお母さんと赤ちゃんが真正面に座り、泣くのではないか不安だったが、終わったあと、赤ちゃんが「ニコ」と笑ってくれたこと！ずっと忘れられない。やはり続けるべきだ、と感じた。

●伝えたいこと

- ・具体的な努力をしていかないと、また連盟の行事に翻弄されてしまう。
- ・多くの指導者(例えば 1,000 人)が、ある日、一斉に「一人ミニコンサート」を実行したら、すごい効果があるのではないか。
- ・今後、指導者はそういう気持ちで取り組んで欲しい、という激励。

白井 翠画 先生(中国地区・広島県)

吟詠詩舞道玉翠流翠混会 会長

●コロナの影響、高齢化、幼少年について

- ・自分は新米会長。コロナ前とコロナ後では全く状況が違っている。
- ・広島支部に所属しているが、会員同士の住まいは離れており、それで

も昔は集っていたが、現在は高齢化でむずかしくなった。

- ・指導者を許可されてからすぐ、娘を弟子にとったことで、娘の友達なども入会してくれ、幼少年の数が増えたが、進学などで減っていった。

●幼少年に踊りに興味を持ってもらう、続けてもらうには

- ・一対一で指導してもらうことも大切だが、県総連単位で、幼少年同士で語り合う機会を設け、流派の垣根を越えて仲良くなることで、踊りも続けていくことにつながれば。
- ・詩舞となると詩吟以上に「敷居が高い」と思われるがち。
- ・組織で学校に入るのが一番理想的だとは思うが、体験を含んだようなワークショップ的なものがいい。
- ・例えば、サッカーのリフティングをするようなイメージで、練習の一環として、お扇子を自由自在に扱っている映像などをSNSで発信することで、「お扇子は身近で面白いものだな」と感じてもらうきっかけになるのではないか。

有坂 旦悠 先生(東日本地区・東京都)

旦早流吟詠会 二代目宗家

●詩吟をひろめるために

- ・自分の流派は「若い」流派。
- ・旦早流という名…「早く詩吟を広めたい」という指示のもとスタート。

・2年前に二代宗家になったとき、ホームページを一掃したところ、舞台関係者から話を聞きたいとの要望をいただいた。

●頼もししい門下生を得て

・日中国交回復の舞台に関して

・舞台内で詩吟を吟じる役者さんに指導したところ、詩吟に魅了され、芸大やイタリアで声楽を学んだ方であるが、「日本の伝統芸能である詩吟をあらゆるところで広めたい」ということで、8月に門下生になってくれた。

・この門下生は埼玉県の観光大使も努めており、そのような縁で、1月にNHKさいたま放送局のラジオ番組に、私もゲストとして呼んでいただき、詩吟の魅力をお話させていただけた。

・このような方が会員になってくれたことが光栄。

●小学校ほか、指導依頼をいただいたきっかけ

・私どもの会では、3年前から小学校で教えている。

・また、母校の高校から詩吟の構成吟の披露を依頼されている。

・OBの会長をしていた時に「和歌・短歌を吟ずる会」として始めたのがきっかけ。

・地域の後援会長に、ある地域の小学校でも教えていることを話したところ、こちらでも教えて欲しい、ということになり、3月からスタート

予定だが、すでに2名の入会が決まっている。

- ・会員さんを増やす目的でホームページを作ったが、なかなか来ない。
- ・密着した地元の方々へ広めていくのが一番。

山西 岳城 先生(中部地区・三重県)

三重吟道会 会長

●振興会および役員へのお願い

- ・振興会主催の全国大会に、各地区から選抜者を出して欲しい。
- ・同じ地域だけではなく、順次、いろいろな地域で(名流大会などを)開催して欲しい。

●吟詠剣詩舞を知らない方々へ向けての取り組み

- ・歌謡吟詠を財団の YouTube に載せて、視聴回数を増やしながら、普及拡大を図る仕組みを検討して欲しい。
- ・年代別に歌謡吟詠を制作

【幼少年】⇒童歌、童謡を通して紹介

童謡・唱歌・「富士山」	漢 詩 「富士山」 石川丈山
・「紅葉」	「三行」 杜牧
・「ふるさと」	短 歌 「ふるさとの山」 石川啄木
	ほか 「月の砂漠」など

【一般・成人】⇒唱歌、なじみの演歌など

・「荒城の月」	「月夜荒城の曲を聞く」水野豊洲 「荒城の月」 本宮三香
・「悲しい酒」	「悲しい酒」 渡部吟神

・「千曲川」 新体詩「千曲川旅情の歌」 島崎藤村

・「南部蝉時雨」 岩手県の民謡「南部牛追い唄」
「南部牛追い唄」 渡部吟神

【年配】⇒昭和 10～30 年代にヒットした懐メロ歌謡など

・「柿の木坂の家」

1 番と 2 番を歌い、3 番目を漢詩に譜付けして歌おうと思ったが、それでは芸がないので、2 番目にして「秋には赤いトンボとり」に注目し、赤とんぼの 1 番と 2 番を合わせて、漢詩の絶句にあわせて譜付けして好評を得た。

・「赤いランプの終列車」

1 番と 2 番を歌い、3 番目の歌詞を絶句の口調にして発表した。
ある会からは、いつも歌謡吟詠のリクエストを受けて披露している。

・「影を慕いて」藤山一郎、「かえり船」田畠義夫

なども漢詩で歌われているものがある いわくぼうしゅうほう(?)

・「憧れのハワイ航路」など 「太平洋上作有り」 安達漢城

・「湯の町エレジー」近江俊郎 「湯の町エレジーに題す(?)」ごとうせきこう(?)

・歌謡吟詠から広めていくにあたり、「うたいたい歌謡曲はあるが漢詩がない」、逆に「漢詩に合う歌謡曲がみあたらない」など多くあり、財団であらたに歌謡吟詠を制作して、YouTube チャンネルに上げていただき、冊子などもあれば尚よい。

中武 玲星 先生(九州地区・宮崎県)

吟道藤星流 会長

●神社や寺社などで奉納吟

- ・地元の宮崎神宮で、毎年、「新春奉納伝統芸能」で奉納吟をさせていただいている。
- ・第1回から参加させていただき、今年で47回になる。
- ・昔は師範会の先生だけの選抜であったが、今は参加者も少なくなり、着物を着られたら参加して良い、ということに。
- ・参拝者が何万人もいる中で詩吟をすると、清々しい気持ちになれる
- ・参拝者にも好評。

●待ち時間と民謡

- ・コロナ禍は3回中止になったが、コロナ後は、参拝者は距離をあけて並ぶようになったことで、おのずと参拝までの待ち時間が長くなり、その待ち時間に見ていただけるようになった。
- ・人は聞いたことがない曲に関して、あまり注目しない傾向があるようで、今までではスルーされること多かったが、昨年から、漢詩の中に民謡を入れたものをやってみた。
- ・民謡が入ると耳馴染みがあるので、立ち止まって聞いてくれたり、会の中でも民謡をやられている方も多いので、他の吟にくらべると拍手も多いようにも感じた(宮崎は民謡の宝庫もある)。

●お寺でのミニコンサート

- ・会員さんの中で、檀家になっているお寺が、檀家さん向けに「お彼岸

コンサート」(30分ほど)というものを開催されていて、そこで詩吟はいかがですか、というお話をいただいた。

- ・「秋彼岸吟詠コンサート」とし、歌謡吟詠や、秋にちなんだ和歌、「かあさんの歌」に和歌を入れたものを、最後みんな一緒にうたつたりした。
- ・お母さんを思い出されたのか、涙を流す方もおられ、とても好評で、次は「春彼岸コンサート」の依頼があり、また違う企画を予定している。

小笠原 岳峰 先生(中部地区・静岡県)

日本詩吟道 浜松岳風会 会長

●独吟の大会を立ち上げ

- ・私の会の大会では、以前より、会長や主な幹部の先生方が独吟、それ以外の一般の会員は、合吟という内容で構成されている。
- ・ほかの一般会員たちも、みな独吟をしたい気持ちがあり、35年ほど前に、独吟を主体にした大会を立ち上げ、今も続けている。

●若い人にまかせよう

- ・これからは若い人に前に立ってもらおうと、息子に任せたところ、今まで浜松市の方だけで開催していた大会であったが、岡崎市と焼津市の方にもご出演いただけたことになった。
- ・中国地区の菅源先生のご発言にあった「内向きの大会でずっとやつてきた」という言葉が染みた。

●みなさまのアイデアを参考に！

- ・これからは、オープンにして100名くらい集まれるようなところで開催していきたい。
- ・東日本地区の田中竜真先生からあった「200円の券を会員に渡して配る」という方法も取り入れたい。
- ・今までコンクールや大会に追われ、あまり余裕がなかった。
- ・これからは、気持ちを入れ替え、若い方にも引き継いでいき、YouTube なども利用しながら、笹川会長のお言葉にもあったように、熱意をもってやっていきたい。

寺山 天洲 先生(東日本地区・東京)

天洲流吟詠会 宗家

●お寺での奉納吟、みんなで振り付き発声体操

- ・昨年末、お寺で奉納吟詠をさせていただいた。
- ・老若男女のみなさんと一緒に、手振りを入れて「富士山」。
- ・お年寄りには「手を挙げると肩が楽になりますよ」と発声体操も。
- ・伊勢神宮や靖国神社でも奉納吟をおこなっている。
- ・自分にもプラスになるし、外国の方も興味深く見てくれたり、今後も続けていきたい。
- ・お年寄りの施設(デイサービス)でも、発声体操をしている。

後藤 旦早 先生(東日本地区・東京)

旦早流吟詠会 初代宗家

- ・自分の会は創設30年と若い会であるが、二代目宗家と三代目宗嗣もあり、50年、100年と続くように、これからも初代宗家として自分が頑張らねばという気持ち。

●詩吟を広めるための提案、構想

- ・職域＝職場で詩吟教室を、企業の福利厚生としてやりませんか！
- ・高校生対象に詩吟教室を行う（3年生は受験のため、1年生が対象）。
- ・横浜の中華街に住んでいる約5,000人の中国系の方々に、中国で作られた李白や杜牧、白楽天など、詩吟で広めたい。中華街で詩吟。

●「語り吟」の良さ

- ・もっと分かりやすい詩吟を⇒「語り吟」。小林高校…小林の中学生が学徒動員で多くの人が命を落とした。これを「詩吟＋語り＋歌謡」まで入れて表現しところ、皆さん、涙ながらに聞いてくれた。
- ・15年ほど前、CDにして1,000枚完売、再販も。
- ・こういう世界を広めたい思いから「語り吟」の協会を作った。
- ・絶句を3分にしたら、聞きごたえがある。
- ・吟に入る前、1分ほど説明を入れると馴染みがない方に伝わりやすい。
- ・20分の語り吟は決して大変ではない（講談や落語も80代で活躍）。
- ・自分の身の回りでも有名な会が次々と消えていく。世代交代が遅れ

ないように。若返りは重要。みなさまもこの吟剣詩舞界が未来永劫続くためにも実行して欲しい。

渡部凰堂先生(東北地区・福島)

神道流吟詠会 宗家

●高齢化への対策、「詩吟は健康に良い」という証明を

- ・吟剣詩舞の「2025年問題」。多くの方が75歳以上に。
- ・これまで「吟詠は健康に良い」と言わされてきた。しかしそれを科学的に検証するエビデンスは今までなかった。こうした調査事業を日本吟剣詩舞振興会にぜひ実施して欲しい。
- ・検証結果のデータを全国に展開し、それをきっかけに普及できれば。

●中学、高校、大学と続けられる環境を

- ・中学生になると辞めてしまう。
- ・高校の部活動として吟剣詩舞を継続していただけるよう、高文連と連携をして欲しい(高校に部活があれば、中学で辞めない)。
- ・高校の部活動において、少壮など素晴らしい先生に指導していただければ、大学に入っても継続する可能性が高まり、ゆくゆくは少壮を目指したくなるような環境作りができれば。

●幼少年に向けての働き掛け

- ・若い方は「面白いか」 or 「面白くないか」で判断する。

- ・なぜ、詩吟の面白さが伝わらないのか
- ・詩吟の上手な人の映像を流しただけでは若い人たちには響かない。
- ・「面白いもの」を作る工夫を。
- ・多種多様な趣味がある中で選んでもらうために“何か”をしなければならない。
- ・例えば、絶句は4行しかなく、歌い方やアクセントも決まっているためか、若い人たちには「みんな同じに聞こえる」とのこと。
- ・昔は自由にうたっていた。
- ・「和歌は気持ちを入れやすい」、「歌謡吟詠は馴染みがある」はヒント。
- ・幼少期に詩吟に触れる機会が皆無。文部省などへ働き掛けて、小学校であらゆる“道”といわれる体験(柔道、書道、華道)などの選択肢のひとつとして、詩吟を体験して欲しい。

笹野正廣先生(東日本地区・群馬県)

神正流吟道会 会長

●神社などへの奉納

- ・神正流吟道会では、剣舞部、詩舞部、吟詠部があり、自分も吟剣詩舞をマスターしている。
- ・神社の奉賛会に囁している。
- ・靖国神社、伊勢神宮、護国神社などから、様々な形で依頼がある。

●振興会を離れた方へ向けて

- ・日本吟剣詩舞振興会から離れていった方々に案内を出し、奉賛会に協力を依頼して、その繋がりから、群馬県連への復活を再構築する活動をしている。

●吟剣詩舞で学生を後押し！

- ・やる気のある高校生は、一晩でマスターできるほど力がある
- ・中学生や高校生の受験期をどう乗り越えるか。
- ・詩舞をやっている、ある会員さんの例。就職面接の中で、詩舞のこと を説明、披露したことがきっかけで入社することができた。
- ・吟剣詩舞界を盛り上げるためだけではなく、子供たちの生活の“糧”、 メリットを得てもらい、少しでも(就職や進学など)後押しできれば。 結果を急ぎ過ぎ。

●維持と普及のためにも新たなチャレンジ！

- ・今度の文化祭では、初めてワークショップにチャレンジしてみる。
- ・年齢制限なしで、体験や披露できるコーナー。
- ・吟剣詩舞だけではなく、書道や日舞もある。
- ・お互いに時間が被らないよう配慮し、ふさわしい場所も提供する予定。
- ・そこに月刊「吟剣詩舞」なども並べて見てもらい、知らせていただきたい。

振興会より

- ・以前、振興会が中高生向けに作成した、吟詠家詩舞のマンガがある。
- ・若い方が集まるような機会があれば、無償で提供しますので冊数と希望届日をお知らせください。

大下馨風先生(中国地区・広島県)

馨風流吟剣詩舞道 宗家

●「老人会」をきっかけに

- ・コロナ前は、声を掛けたら入ってください、現状維持ができていたが、コロナを経て、知らぬ間にどんどん減ってきてる印象。
- ・舞台が開催できるようになり、昨年、一昨年に、1人また1人と、少しずつ入っていただけるようになった(その分辞められる方もいるが)。
- ・きっかけは近所の「老人会」。
- ・60歳になったら入れるので、すぐ入った。
- ・昔、詩吟をされていた方もおられ、そこへ踊りがあることを説明。
- ・敬老会や総会で踊ったところ、興味のある方が入ってくれた。
- ・生きてきた時間が長い=その分知り合いも多い。
- ・その子供さん、お孫さんへも声掛けできる。
- ・老人会とはいえ、若い方は60歳。
- ・地道に周りの身近な人からスカウトしていく。

迫 翔豪先生(東日本地区・千葉県)

剣詩舞道翔山流 総帥

●4年後の高文祭に向けて

- ・4年後(令和11年)の「第53回全国高等学校総合文化祭」(いわゆる文化部のインターハイ、略して高文祭)が、千葉県で開催されることが決定した。調べてみると、記念すべき第1回も千葉県開催であった。
- ・47都道府県のうち、「吟剣詩舞部門」に参加しているのは約半数。
- ・学校単位の参加と、いくつかの学校で混成される2パターン。
- ・「吟剣詩舞部門」以外の部門は、ほぼ全国的に参加。
- ・昨年、千葉県は不参加だった。今年の参加も難しいが、来年は参加できよう動き出している。
- ・4年後の地元開催に向け、プロジェクトチームが発足した。

●高校に「吟剣詩舞」の部活を

- ・流派に所属する若者を対象にすることは難しい。まずは「学校」が軸。
- ・もともとやっている若い方が少ないこともあり、何とか学校の部活動に取り入れていただけたら。
- ・千葉県教育委員会にもお伺いしたところ、校長先生の考え方が主導のこと。
- ・千葉県内の(私立、公立含めた)校長先生方に、吟剣詩舞の舞台を見ていただく、あるいは、DVDの資料を見ていただき、まず関心をもつ

てもらう。

●部活がなくても出場できる仕組み作りを

・学校単位となるとハードルは高いが、各地元や教育委員会の協力を得て、高文祭に全国すべてからもれなく参加できる形ができあがれば、若い人たちへのきっかけになるはず。

・小中学校で継続していた人たちも、たとえ高校で吟剣詩舞の部活がなかったとしても、混成チームとして参加する可能性があるとわかれば、ひとつの目標になると思う。

・自分が詩舞を指導している中学3年生に、高文祭に向けていろいろと動いている話をしたところ、とても喜んでいた。

・4年後の千葉大会には出場できないが、高校生の間に参加できれば。

・自分の都道府県では動いていない、わからない、ということで、参加をあきらめている子がいるのではないか。

・もし、高文祭に参加していない都道府県があれば、参加へ向けて動いてみると、若い方の目標になると思う。

●俳句 作者本人を前に吟ずる、新しい作品の新鮮さ

・長野県松本市の会派での50周年記念大会があった。

・大会の中で、俳句に節付けをしたもの吟じるコーナーがあった。

・俳句サークルの指導者が詩吟の会員さんで、生徒さんが俳句を作り、

良かったものを選抜し、吟詠として披露するというもの。

・通常、漢詩や和歌など、昔からあるものをやっているが、新しい作品、

今の人を作った作品を吟じたり、舞をしたりすることはあまりない。

・入選者5名にそれぞれ吟者がつき、作者の横で吟じる演出。

・俳句を作られた方は、ものすごく感動していた。

・自分が作った俳句が詩吟になつたらこんなふうになるんだ！

・俳句作者も、詩吟に興味を持ったようだ。

・お客様も、今の言葉で作られた俳句、川柳に節がついているため、意味がわかりやすく、作者も目の前にいるので、その思いがよく伝わる。

・吟者も、意味がよりストレートに入ってくるためか、通常の漢詩よりも、詩心表現が豊だったと感じた。

・今の人を作ったものを積極的に取り入れて、交流を持っていくっていうのも一つアイデアとしていいのではないか。

事務局より

●高文祭について

「吟詠剣詩舞部門」は、今は正式な部門だが、都道府県の参加が半数を割ってしまうと、正式な部門ではなくなり、参考出展のような形になつてしまう。昨年の出場団体が「24」なので、ギリギリの状態。

・開催地では、開催の数年前から出場に向けて強化していくが、開催後

は続かないことが多い。

- ・全国高等学校文化連盟とも連携し、参加希望の生徒が出場できるよう働きかけていきたい。
- ・令和4年の東京開催では、その3~4年前から準備が始まった。
- ・都総連の先生方にもご協力いただき、都の予選大会、武道館での全国大会などを、高校の先生方を無料でご招待して観ていただいた。
- ・高校の先生方は、必ずしも吟剣詩舞の専門家ではないため、まずは知っていただくという目的。

●武道館大会を高校の先生方に観ていただくために

- ・11月の武道館大会を、ぜひ学校関係者の先生方に観ていただきたい、という都道府県がありましたら、積極的に観ていただけるよう、招待のチケットをお渡しするなど検討しますので、ご連絡ください。

早淵鯉將副会長より

- ・地元の神戸市では、学校の部活動を校外委託することになった。
- ・尼崎市長とも校外委託について話す機会があり、おそらく尼崎、西宮もあとに続くだろうと。
- ・校外委託することで、部活動に吟詠剣詩舞が選択される可能性も。
- ・流儀間のつながりについて、兵庫県(近畿地区)では、流儀をまたいで一つの作品を作ることはよくあり、よその先生の振付でお稽古すること

とはお弟子さんにとっても勉強になる、プラスになること。

・兵庫県では、幼少青年の発表会を毎年12月頃に開催しており、26年

続いている(群舞のない年に開催のため、回数としては第13回)。

・出演者の数はあまり変わっておらず、ありがたいこと。

・最近は、お客様の数が増えてきた。

・外部識者検討会でも出た意見だが、伝統文化として、変えてはいけない部分はしっかりと守り、変えていい部分はどんどん変えていこう。

・みなさん工夫されており、明るい未来が見えた。

八代光晃子先生(九州地区・宮崎県)

淡窓伝光靈流日本詩道会 会長

●流派「青壯年部」のチャレンジ！

・吟剣詩舞にとって、少子高齢化とコロナの影響は大きく、いつも挨拶の言葉に含まれるほど。しかしそれを理由に諦めてはいけない。

・流派では、青壯年部(20～50代)を設け、少壮吟士および準候補者なども含まれており、メンバーでさまざま企画し活動している。

・ショッピングモールなどで場所の確保、許可をいただき、「とつぜんライブ」と称して吟剣詩舞を披露したり、能登半島地震の被害に対し、寄附以外で何かできることはないか、ということで、大分の能楽堂をお借りしておこなった「能登復興応援ライブ」や、中津駅の道の駅でもて

ライブを行い、それらの活動を YouTube で配信している。

- ・コロナがあったから、SNS を盛んに利用するようになった。
- ・西日本少壮吟士会でも、令和 2 年 6 月から Youtube 配信を開始。
- ・ご当地にちなんだ漢詩や短歌を、説明を交えながら、コロナ終息への願いを込めて 5 分ほどの動画を作成。
- ・作成した動画は振興会から配信してもらった
- ・迫 翔豪先生(東日本地区・千葉県)のエピソードと同じように、宮崎の国民文化祭において、宮崎県所属の私と中武先生で、漢詩部門で受賞された方の漢詩を、その場で吟じさせていただいた。
- ・このように、大会など開催県の吟詠家が、その場で作られた漢詩を吟じる、ということは新しい発見であった。

中尾 仁泉 先生(近畿地区・大阪府)

(一社)哲泉流日本吟詠協会 本部会長

●すべては「情熱」

- ・本日話題に出た活動はすべてやってきた。
- ・今でも会員は減っていない。
- ・すべては情熱である。
- ・高齢化というが、80歳、90歳代は元気だ！「われら青春に乾杯」
- ・80歳代が吟界詩舞会を支えている。

●大切にすべきこと、伝えたいこと

- ・筋を通すこと(宗家⇒財団、 財団⇒宗家⇒会 など)を大切に。
- ・(私自身、34の流派を統率していた者として)日本一になり、スーパーチームになっても、宗家から好かれる人、舞台に出てもみんなに応援してもらえるような人になって欲しい。

●武道館に向けて

- ・財団設立時からお世話になっている。
- ・武道館を満杯にするためには、全国の各流派に依頼する。
- ・SNSも大切だが、結局は「人対人」。そして最後は人間力。

●幼少年への働き掛け、高校生で復活も！

- ・幼稚園では150～170人のうち、40人くらい入会してくれる。
- ・小学校で半分になり、中学校では部活動などで、またぐっと減る。
- ・しかし、幼稚園でやっていた子が、高校生になり復帰した例もある。
- ・数は少ないが、残る子は必ずいる。

●満員にできたのは人とのつながり

- ・20歳のとき、「一声かければ1,000人、二声かければ2,000人集まる男になりたい」と思った。
- ・5年ごとに記念大会を開催したが、すべて満員だった(入場料は無料もしくは50円のときも)。

- ・10年ほど前、インターネットなどをを利用して広報活動も行ったが、誰も来なかった。やはり人ととのつながりである。
- ・食事会や飲み会などで声掛けをし、「チケットは通し番号だから、来なかつたらわかるぞ(笑)」などと談笑しながら、地道に集客につなげた。
- ・詩吟も人だ。

徳田 寿風 副会長より 閉会のご挨拶

- ・今までの宗家・会長会議の中で、一番盛り上がったのではないか。
- ・私自身もとても勉強になった。
- ・抱えている問題は、ほぼ共通している。
- ・「これぞ」という打開策はなかなか見つからないが、今日お伺いした、いろいろな意見からヒントを得て、まず始めてみることが大切。
- ・財団としても、本日のみなさまからの貴重なご意見、ご要望のひとつを大切に受け止めて、検討していく所存ですので、今後とも何卒ご協力賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
- ・已年は「大きな変化」「転換が起こる年」。
- ・久しぶりの武道館大会で、復活再生をいたしましょう！！